

カルメル

霊性センターニュース



贖い主 幸いなる沈黙

2016年11月

325号

## 目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	17
東京	20
京都	24
名古屋	29
北陸	30
諸所の企画案内	33
年間購読(郵送)のご案内	44
編集後記	45

# 心の泉





## 第三卷

### 第三章 神のみことばは、謙虚に聞かなければならない、

#### しかし多くの人はその重んじない

#### 3 主

この世と、その主人に奉仕するのと同様な勤勉さで、私に奉仕し、私に服従する者があるか。「シドンよ、恥じ入れ！と海は言う」（イザヤ23・4）。聞け、それはこうである。わずかなもうけを得るために、人は長い旅もいとわない。しかし永遠の生命のためなら、一歩さえも踏み出すのを渋る。人は、卑しいもうけを切に探し求め、時にはわずかな金銭のために、争って恥じない。空しいことや、取るに足りない約束のために、昼も夜も労苦に甘んじる。

#### 4 私は報いを与える

しかし、残念なことに、かけがえのない善を得るため、比類ない報いのため、最高の栄誉のため、限りない栄光のためには、わずかな骨折りさえいとう。

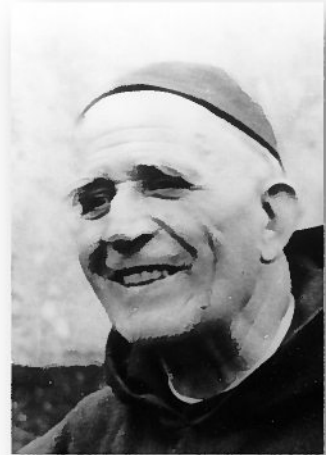
怠惰な、不平だらけのしもべよ、恥じ入れ。世の人が、滅びの道にまっしぐらに突き進むよりも、あなたが生ぬるく、永遠の生命に向けて歩き続けているという。あなたが真理を喜びとする以上に、彼らは空しいものに歓喜する。ともあれ、世の人の希望はしばしば裏切られるが、私の約束は誰をもあざむかず、私を信頼する者に、慰めを与えずに帰すことはない。私は約束したものを必ず与える。言ったことを必ず実行する。もし人が最後まで私を愛し続けるなら、必ずそうするであろう。私は、善人すべてに報い、また敬虔な人すべてに厳しい試練を与える。

## いつくしみの特別聖年 終わりのはじまり

—11月—

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父の列福  
おめでとうございます ！

わたしに対する神のみ旨は、  
カルメルの霊性を人々に広く伝えたいという  
望みとなっておられました。  
カルメル会がもっている霊的宝、  
それは  
血を通わせて具体化していくべき教え  
神の恵みを開花させるための  
道筋を示す教えです。  
わたしはこの教えを人々に伝えたい。\*



～福者マリー・エウジェンヌ神父～

神への渇きとは、神との親しさに生きること、言葉を必ずしも必要としない沈黙の祈り、神のみ前に留まる祈りに生きることです。以前このような観想と呼ばれる祈りは世間を離れ、修道院の囲いの中の人々に限られていました。神のみ摂理はマリー・エウジェンヌ神父を徐々に生ける神の証し人として、祈りに深く根ざした使徒として生きたいと望む人々へと導きました。

11月19日にフランスのアヴィニオンで列福されるこのカルメル会士は10月16日列聖された三位一体の聖エリザベットとともに「いつくしみの特別聖年」の終わりにあたり、わたしたち一人ひとりをいつくしみの愛の泉のほとりにおいて祈りの使徒となるよう助けてくださると確信しています。それぞれ異なる日々の生活においてできる努力をし、出来ないときはいつくしみに委ねて、ひたすら彼らが歩んだ道の跡をついていきたいものです。

伊従 信子 (いより のぶこ)

ノートルダム・ド・ヴィ

\* 『テレーズを愛した人々』 伊従 信子、女子パウロ会出版

## 人を赦す (35)

くのり 彰

前回指摘したように、神をも恐れぬ邪悪な行為、無責任極まりない不正な行為をした者が、安穩として生涯を送るということはあり得ます。独裁者が反対者を大量に粛清するならば、その行為の残虐さや不当性はだれの目にも明らかですが、そうでない場合、事情を知らない人には、まったくその邪悪さや不正は分からずじまいとなるからです。

それは、彼あるいは彼女が、その邪悪さや不正を皆に悟られないように、自分の言動がすべて正当であるかのように、カモフラージュするからです。「そうするしかなかった」とか「できるかぎりのことはやった」と、自分に都合の良いように、丁寧に論理を組み立て、周りの人を説得してしまうのです。きれいな言葉遣いや物腰の柔らかさ、同情を引く涙など、演技力が加われば、性善説に立つ人々は、皆、だまされてしまいます。どこか振り込め詐欺に似たところがあります。

こうして、多くの人々が彼あるいは彼女を、実際は、邪悪で不正な行為をしているにもかかわらず、正しい人、誠実な人と見なし、心から尊敬するという馬鹿げたことも、起きているようです。それは、私たちの目が彼らの姿や表情や動作しか見ず、私たちの耳が彼らの音声となった言葉しかとらえないからです。

しかし、キリストの目は、彼らの表面を貫き、彼らの心の内側を見るといっていいでしょう。

敬虔に祈り、しばしば断食し、寛大に施しをする律法学者たちやファリサイ派の人々、彼らが自分たちの正しさを疑ったことはないでしょうし、民衆も彼らを正しい人と思っていたことでしょう。しかし、キリストはその形式的な信仰、偽善を見抜くのです。信仰の中身がすっぽり落ちていること、すなわち彼らの不信仰を糾弾するのです。

この民は口先では私を敬うが、その心は私から遠く離れている。  
人間の戒めを教えとして教え、むなしく私をあがめている。(マタ 15-8-9)

現代でも、自分の心の汚れ、罪にまったく気づかない人もいます。

# 十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (107)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

## 召命に対する誘惑(1)

このテーマについても、十字架の聖ヨハネにまつわるこぼれ話は、たくさんあります。

ずっと前に神の母のアロンソ修士の召命について、聖人が彼を、カルトゥージオ会から、すでに説明したような意味で「奪った」ことを話しましたが、彼は、修練期に受けた多くの誘惑を、聖人がすばらしい仕方を取り除いてくれたと語っています。

ここでは、ベルナベ修士と十字架のヘロニモ修士の二つの誘惑の話を取り上げるだけで十分でしょう。

*ベルナベ修士の話*：これは、セゴビアで起きたことで、語っているのは彼自身です。聖人の先見の明、あるいは主から受けた知識を示す一例として語っています。

「次のようなことが、この証人に起こりました。彼がある修道士のところに行き、だれも聞こえないところで、二人きりでいた時、その修道士は、この会を去り、偉大なカルトゥージオ会へ行こうと、この証人を説得してきました。都合の良い理由をいくつか挙げ、あちらには何人もの聖人がいると、話を終えました。

この後、聖なるヨハネ修父にこの証人が呼ばれた時、彼はその話のことや、この修道士がこの証人に話した内容を修父に告げ、何も隠し立てをしたくないと言うと、聖人はこう答えました。

『どういうことか分かります』と。だれがそういうことを言ったのかこの証人に尋ねた後、神のように聖なる司祭は、次のような言葉を付け加えたので、この証人は驚き入り、罪を告解しました。すなわち、聖人は、彼にそれは大きな誘惑であり、悪魔の欺きであること、そういうことに場を与えることも考えることもしないように、もしそうするならば、挫折することになるであろうから、その修道士を避けるように、と言いました。この証人は、挫折しないために、そのようなことを考えないために、また自分の心の中からその修道士を追い出すために、聖なるヨハネ修父に言われた言葉によって、自分の心が励まされたのを感じました。

## 年間第32主日 C

(ルカ20:27~38)

教会の典礼暦が終わりに近づくとつれて、朗読箇所は終末論的になります。本日の福音の主なテーマは死後の生命と復活の真の意味です。

畏：サドカイ派の人々は祭司長たちがイエスのことばに黙ってしまったのを見て、死者の復活に関する質問をしてイエスと対決しました。もしイエスが復活を擁護したら、サドカイ派の人々を怒らせたでしょう。もし復活を否定したら、ファリサイ派の人々を怒らせたでしょう。どちらにしても、群衆のある者たちを離反させることになったでしょう。ユダヤ人の社会では女性は法的権利がなく、収入を得られませんでしたから (Dt 25:5-10)、この律法はユダヤ人の社会でやもめの経済的、社会的な安定のために設けられていたのです。この律法によれば、男の人が子供なしに死んだ場合、その兄弟はやもめと結婚し、家系を守るために子供をもうけねばなりません。仮に、次々に七人の義兄弟と結婚し、子供なしに死んだ女性の場合夫ほどの人なのかと彼らはイエスにたずねました。

イエスは死後の存在と命についてサドカイ派の人々に反論し始めました。永遠の命はこの世にあるという彼らの思いがちをただします。イエスは二つの点を指摘します。イエスはまず復活に対して聖書的に証明します。アブラハム、イザク、ヤコブの神である主に関する燃える柴での記述が現在形であり、この三人の族長たちは死後600年経ったモーセの時代にもまだ生きていました。イエスはサドカイ派の人々の聖なるテキストであるトラー（モーセ五書）を彼らの反復活に対する信仰へ答えに利用しました。神は燃える柴の中からモーセに「私はあなたの父の神、アブラハムの神、イザクの神、ヤコブの神である」と言われました（出エジプト記3:1~6）。神がご自分は族長たちの神であると言われるのですから、復活と永遠の生命を認めることによって神は族長であるアブラハム、イザク、ヤコブを認めています。身体の復活はモーセ五書そのものから証明することができます。

第二にイエスは死後の生命はこの世の生命の永遠の再生ではないと説明します。物事は私たちが死んだ後は異なります。結婚も含め普通の間人間関係は変わります。イエスはサドカイ派の人々（この人たちは天使と霊を否定しています）に、神が復活と天的生命に値すると考える人たちは天使と同様に不死であり、「神の子供」であると語ります。

私たちは復活の民のように生きる必要があります。これは私たちが罪と悪の習慣の墓に埋められるのではないと言うことを意味します。そうではなく、復活した主の真の現存を経験して、喜びと平和の生命を生きます。復活への希望と神と共にある永遠の生命は、日々の生活の中で私たちに持続する平和と神的喜びを与えてくれます。

(Sr. Paulina)



## 年間第33主日

主が最後に来られるとき用意がどのように出来ているだろうか

今日の福音の中で、イエスはエルサレムと神殿の破壊について語っています。ユダヤ人にとってこれら二つのものの破壊は世の終わりに等しいものでした。イエスが従う者の受けるべき迫害についてはっきりとあからさまに語った後も、支持者がたくさんいたのは驚きです。神は教会を浄化するために迫害をお許しになります。秋に嵐が木々を揺さぶると葉が落ち、木々は死んだように見えます。春になると新しい葉を出し、花を咲かせます。これがどの迫害においても起こります。たくさんの死んだ葉が落ちるでしょうが、教会の生命は新しくされつづけるでしょう。

死を考えることは私たちの多くにとって恐ろしいことです。心から遠く離しておきたいのですが、死だけは確実に来ます。大多数の人々はたとえ慢性病で死期が近づいていても、自殺とかテロでもない限り、もうすぐ死ぬと気づいていません。今この瞬間に各人がこの問題を自分に問いかけるべきです。今日神の審判席に呼び出されたらどうなるのでしょうか。用意が出来ていたいと思うのがほとんどの人でしょう。恩寵のうちに死ぬことを願う私たちキリスト者は、神との友情の中にあることになるでしょう。

私たちは日々その時を知らずに生きていかなければなりません。今日の福音で、イエスもその日がいつであるかに少しも関心がありません。彼の唯一の関心と配慮は、弟子たちが人の想像力につきまとう恐怖から自由であることでした。イエスは「私がそれである」と仰います。つまり、私がそのもの、あなたたちの問題の唯一の解決であるといわれるのです。あなたに必要なことは私を信頼し、他の神を探しに出かけないことだと主は言いたいのです。このようにキリスト教的人生を生きる人は死を恐れる必要がありません。突然の死が襲うかもしれませんが、死の準備が出来ていることでしょう。

キリスト者として他のすべての人に模範を示さなければなりません。私たちは神が精神的肉体的恵みを与えてくださったとわかっています。またいつの日か神の与えてくださった才能をどう役立てたか申し開きをしなければならぬことを知っています。もし誠実に用いているのなら、天国への道が開かれるでしょう。乱用したり、無駄にしたりしているのなら、約束の地を見ることがないでしょう。

(Beatrice)

## 王であるキリスト (ルカ 23 : 35-43)

今年 2016 年、王であるキリストの祭日は、典礼歴最後の主日であると同時に、神のいつくしみの特別聖年が終わりを告げる日でもあります。この祭日に、キリストは力に満ち栄光に輝く王でいらっしゃる半面いつくしみの王でいらっしゃることを心温まる幸せのなかで思い巡らします。今日の福音が告げているように、十字架上のキリストの、想像できない極度の苦しみ、嘲りやののしりに耐え何一つご自分のためにはなさない、一見敗北の王とも見える矛盾したお姿は、真の王の永遠の勝利への意味深い現実を示しています。この王は、悔い改めるすべての罪人に対して“あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる”と声をかけずにはいられないいつくしみの王、いつくしみそのものでいらっしゃる王です。人々に喜び溢れる希望を与える王です。

この逆説がもっとも顕著に表れるのは、救い主であるイエスが木の十字架上の死によって地上の使命を全うされたときです。この現実をどのように自分のものとしていたでいていくか、によって恐るべき敗北ともイエスの目的とされていた勝利とも捕えることができるのです。わたしたちが“闇の力の支配から救い出され”光の神の国へと導かれたのはイエスの十字架上の死によるものです。“これはユダヤ人の王”とイエスの王権は大胆に十字架から宣言されていましたがこれは単なる嘲りと見做されました。ファリサイ派の人々、兵士たち、盗賊の一人は神の国をこの世の次元でしか考えることが出来ず、ただイエスを侮辱するのみでした。イエスは一言の弁明もなく、されるがままに苦しみを受け、つましく十字架上の死を遂げて愛の使命を成就してくださいました。

あなたはこの王をどのような方と思い、どのようにお仕えしているでしょうか。自分の罪を悔い改めイエスのいつくしみに委ねた盗賊の一人に倣いましょう。彼はイエスが罪人を救うことのできる罪のない生贄、真心で交わることのできる王であると確信しました。この王は手の届かない王座にいらっしゃる王ではなく、苦しみや困難に打ちのめされている者と一体となり、その重荷を担ってくださる王です。一人の人間として謙虚にイエスに心を向け、十字架上の、真の王であるキリストを見つめ恐れずに願ひましょう。“イエスよ、あなたの楽園においてになるときには、わたしを思い出してください。”

主のみ前に身を低め、自分の至らなさをしっかり踏まえて謙遜に祈るとき、イエスがいつくしみの王であることを切実に感じ、喜びおどります。イエスのいつくしみを経験した人は周りの人に対しても親切に思いやりを持って生きたいと思うでしょう。いつくしみの特別聖年は終わりに近づきましたが、これから先もずっと“主の十字架の血を通して”世を救われた、わたしたちのいつくしみの王キリストに全てを委ね、信頼していきましょう。この世の全ての人が神のいつくしみの国、楽園に導かれるように、王であるキリストはわたしたち一人ひとりをご自分の大使となるよう招いていらっしゃいます。

(Sr. Paulina)

## 待降節第1主日

(マタイ24:37-44)

教会の暦も新たな年となり、主の降誕を待ち望む季節を迎えました。今日の福音は、その始まりに相応しく、文字通り「待つ」ということについて語られています。イエスは、「目を覚ましていなさい」「あなたがたには分からないから」と言われます。それは、いつの日、自分の主が帰って来られるのか、私たちには分からないからです。

イエスは初めにノアの箱舟のお話を出されました。創世記の最初の方の箱舟の話は、地上に悪がはびこった時、神は世界を滅ぼそうとされますが、正しい人ノアとその家族、1つがいの動物達を舟に乗せて生かして下さった話ですね。その日、ノア達が舟に乗り、洪水が来る日まで、人々は放縦の生活をしていましたが、洪水で滅んでしまいました。もし洪水が来るとわかっていたら、きっと生き方を変えていたでしょうね。

人の子がいつ来られるのか、イエスがいつ再び来られるのかがわからなくても待つ、待ちながら歩む、待ちながら用意しながら生きる、その様に歩んでゆけばいいですね。何よりもイエスご自身が、神が私たちのその様な姿を望んでおられるのですから。

私たちは先週の日曜には、王たるキリスト、年間の最後の主日をともに祝いました。そして主が再び来られることを想い、その余韻の中で、私たちは主の降誕を待ち望む、待降節の歩みを歩み始めました。

待降節の歩みは、単に「まだ来ないかな〜」「まだ来ないの〜？」と受け身で歩む歩みではありません。来て欲しいと来られる方のことを想いながら、積極的に待つ歩みです。その様な歩んでゆく中で、クリスマス、主のご降誕をお迎えすることができるならば、イエス様への何よりのプレゼント、神様への心からの贈り物になるでしょうね。

クリスマスに向け歩みつつも、いつか来られる、やがて来られる、イエス様の再臨に想いを馳せ歩んでゆくなら、もしいつ来られたとしても準備が整ってお迎えできる中で歩むことができるでしょう。心からの喜びのうちにお迎えすることができるでしょう。私たちがイエスの言葉に耳を傾け、相応しく待降節を歩んでゆくことができます様に。

(Fr. 古川利雅)

「人には見たいものを見ることのできる力があるのだという。見たいものが見えるとするなら、いまの自分には何が見えるのだろうか・・・」

一年余り前に、新聞小説にあったこの一節に心が惹きつけられ、自分への深遠な問いかけとも感じられて、思いめぐらすことなどを当誌（310号）に書いたりしたのですが、その小説、沢木耕太郎著「春に散る」の連載がせんだって終わりとなりました。連載中は早く次を読みたくて、わくわくして朝を待つという楽しさを存分に味わいましたので、あーあ終わっちゃった、という言い方が気持ちに即します。

同時代の同じジムの元ボクサー四人が、それぞれの深味のある人生を歩み、老境に入ろうというときに再び絆を結び合って、共同生活を始めます。臨場感あふれる魅力的なボクシングの情景や、終の棲家を共にする男同士の、生涯を通しての友情などが、ハードボイルドタッチのクールな陰影をもって描かれ、心酔いしれる感がありました。主人公は人生の初老という時期になって、生まれて初めて他者を無条件に受け入れる経験となる、若いボクサーと出会います。そして、己のすべてを託して渾身の引き渡しをするのです。若いボクサーは、四人の元ボクサーからボクシング即ち人生を教え授けられ、最終的には網膜剥離の失明の危機と引き換えに壮絶な試合に挑み、世界チャンピオンとなるのですが、終盤、眼の手術を終えた病床でのこんな場面があります。

「見えなくなってもいいんです。この眼はあの試合で見たいものを見ましたから」それを聞いている主人公は戦慄をもって確信します。あのような試合をした者にしか見えないものを、彼は見たのだと。「何が見えた?」「誰もいないリングです。レフェリーもバイエフも俺も、誰もいない・・・」あの激しい打ち合いの中で、彼の意識は誰もが行くことができるわけではないボクサーの夢の世界へ行っていたのだ、そして見たいものを見たのだと、主人公にはわかったのです。主人公と同じに、読む私にもそれがわかりました。そして冒頭のあの言葉が再び心の内を満たしたのです。

こうして物語はエンターテイメントならでの、ドラマチックなクライマックスへと進みます。

主人公は、春の終わりの桜並木を歩いているときに、持病の心臓発作で倒れます。薄れゆく意識の中で彼の眼が見たものは、花びらを散らす桜の道を歩く自分の後ろ姿でした。彼は「ただ歩いていきたかった」という自分の人生を深く悟り、認め、受けとるのです。

傘寿のおばあさんにしてボクシング小説へのこの熱の入れようは、我ながらいささか言うをはばかりられる気がします、我を忘れて堪能したことには違いありません。主人公はどこへ歩いていきたかったのでしょうか。とても気になりました。そして祈るような、祝福したいような気持ちになりました。

ホモ・ヴィアトール 旅ゆく人という言葉が心の奥から浮かび上がります。次いで旅路の糧という言葉が現れ出ます。人生の最期に拝領するご聖体を、ヴィアチウム 旅路の糧というそうですが、こうした一連のことを若かった苦しい日に黙想していて、不意に温かさ、安堵と、遥かな希望に襲われ、誰もいない夜更けの聖堂で独り泣いた覚えがあります。ちょうどその頃のこと、心理学の講座を受ける機会があり、その中で半ば遊びのようなエクササイズがありました。「私は〇〇です」と、五つ六つの項目を挙げて自己紹介をします。

例えば、日本の女性です、海外旅行の達人です、笑い上戸です、というように…。

私はそうした中に「私は旅人です」を入れたことを今思い出しています。この小説の主人公のように、どこからきてどこへ行くのか旅路にある自分を感じていたと思われまふ。ただ私は実際の旅、旅行はどちらかといえば不得手であり、あまり経験もありません。旅というものへの思い入れもないに等しいので、云ってみればこれは内面の旅というのかもしれない。この日常のただ中で、時間空間をこえての地図のない旅路というのでしょうか。さらに言えば、主イエズスキリストへの旅にほかなりません。

旅程には実際の旅のように照る日もあり、曇る日もあり、時に暴風雨の日もあります。自分が変わるほどの新鮮な出会いがあり、苦しみがあります。自分が変わるほどの痛苦の別れがあり、よろこびがあります。ここを歩き続ける力、支えは、主イエズスご自身のエルサレムへの旅であり、贖い主、平和の君の存在です。旅の深まりとは、限りなく広がりゆく無辺の世界の出現であり、その内に抱かれ今ここに在ることがより切となり、より真実となることであるのです。そしてそれは主イエズスとの蜜月といえるのです。

いつの日か旅路の終わりに、主イエズスの「向こう岸へ渡ろう」の声を聴きます。私はイエズスにおんぶされているのですが、そのとき私のこの眼も見たいものを見ることができのでしょうか。主イエズスはこの眼に何を見せてくださるのでしょうか。

# いのちの言葉 11月

私を強めてくださる方のおかげで、  
私にはすべてが可能です。

(フィリピ 4・13)

時折、私たちは喜びと力に満たされ、全てがスムーズにいき何でもできるように思えるときがあります。逆に、何もかも難しく感じられる一日もあります。

その理由はさまざまでしょう。ささいな事で身近にいる人を愛せなかったり、自分にとって大切な価値観や生き方を、誰かにうまく伝えられなかったとき。病気や経済的困難、家庭内の難しさが原因だったり、心にある疑念や試練、または失業や、国が戦争にある苦しみが原因だったりするかもしれません。

このような苦しみに喘ぐとき、もはや解決の糸口などどこにもないように思えたりします。それにも増して辛いのは、誰からの助けや支えも期待できず、独りで困難に立ち向かわなければならないと思うときでしょう。

使徒パウロも、喜びと苦しみ、成功と同時に他者からの無理解を、強烈に味わった人でした。しかし、彼は決してあきらめずに、勇気を持って自分の使命を果たそうとしました。彼はスーパーヒーローだったのでしょくか？決してそうではありませんでした。

彼は、自分は弱く、与えられた使命にもふさわしくない者だと感じていました。でも彼には秘密がありました。フィリピの共同体にその秘密を次のように明かしています。「私を強めてくださる方のおかげで、私にはすべてが可能です」と。

パウロは、自分の人生にいつもイエスが共にいて下さるのを発見しました。共同体の人々がパウロを見捨てた時でさえ、彼は決して自分が一人ぼっちだとは思いませんでした。イエスが傍にいて下さったからです。パウロに確信を与え、前進し、逆境に立ち向かうよう押し動かされたのはイエスでした。イエスご自身がパウロの生活の中に入ってこられ、彼の力となっていたのです。

このパウロの秘密は、私たちの秘密ともなり得るのではないでしょくか。

苦しむ私と一つになり、その痛みをご自分も背負って下さるイエスの存在を身近に感じられるなら、きっと私にもすべてが可能です。なるのでしょく。

マタイ福音書でイエスが約束なさったように、他の人たちと愛の交わりに生きるなら、私たちの間にイエスがいらっしゃる（マタイ 18・20 参照）。それなら私にも全てが可能です。一致の力に支えられるのでしょく。

また、福音の言葉を実践するときもそうです。み言葉がその日その日に道を示してくれ、何をどう生きたらよいかを教え、これでよいのだという確信を与えてくれるからです。

こうして私たちは、自分や家族の苦しみだけではなく、周りの社会にも関わっていく力をも得るのでしょく。社会や国家の問題は途方もなく大きく、それをなんとかしようとするのは、「無鉄砲」で「理想主義的」と思われるかも知れません。しかしながら、万能な御方がおられるなら、「すべて」が可能です。

いつくしみの愛のうちに、神は、ひたすら私の善のため、そして私を通して他の人の善のために、「全て」を計らって下さるでしょう。たとえ、すぐに実現されなくても、神のご計画は永遠に及び、必ず成就されるのです。それを信じ希望のうちに歩いていきましょう。

キアラ・ルービックは、神様と「二人三脚」で働くことの大切さについて、こう語っています。

「今、大切な人が危険にさらされ、あるいは、病気でいるのに、自分は何もしてあげられない…。それなら、神様がその瞬間に私に望んでおられることを、より熱心に果たすようにしましょう。よく勉強したり、きれいに掃除をしたり、よく祈ったり、子どもの話を注意して聞いたり…そうすれば、神様ご自身がその人のために問題の糸口を見いだし、苦しむ人を慰め、予想外の解決を考えて下さるでしょう。それは、神様との完全な交わりの中で、二人三脚で働いていくことです。そのためには、神様ご自分の子どもに対して持つておられる愛に、深く信頼する必要があります。この相互の信頼の内に奇跡が行われます。私たちの手の届かないところでは、神様が働いて下さり、しかも、私たちが直接するよりずっと上手に物事を進めて下さることに気がつきます。」<sup>1</sup>

ファビオ・チャルディ神父

\*2016年度の「いのちの言葉」は、フォコラーレ本部のファビオ・チャルディ神父によります。

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

#### いのちの言葉の集い

関東 11月13日(日) 13:30 ~ カトリック藤沢教会(神奈川) 204号室  
(週日に吉祥寺・鷺沼・戸塚・厚木・千葉・浦和・鹿沼でも)

中部 11月20日(日) 13:00 ~ 瀬戸市みずの坂サポートハウス「ゆうや」

長崎 11月16日(水) 14:00 ~ カトリック長与教会 信徒会館2階

▶詳細は各フォコラーレセンターまで。

連絡先:フォコラーレ東京 03-3707-4018/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ: [conil157ch1.wix.com/focolare-jp](http://conil157ch1.wix.com/focolare-jp)

<sup>1</sup> キアラ・ルービック

「Scritti Spirituali/2(霊的書き物)」チッタノーバ社(1997年ローマ) p194-195 参照

# 跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



ORDEN  
CARMELITAS DESCALZOS  
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

<< Communications (時事通信) >>

2016年10月6日

## カルメル会のオスワルド・エスコバル神父の司教叙階式

幼きイエスの聖テレジアの祝日である10月1日の午前9時に、エルサルバドルのチャラテナンゴ教区の新司教の叙階式が始まりました。跣足カルメル会士であるMons. オスワルド・エスコバル神父は、司教に任命されるまで、中央アメリカ管区の管区長でした。

市の中央公園での叙階式は、この教区の前司教 フランシスコ会のルイス・モラオ・アンドレッサ司教によって司式されました。共同司式の司教の中には、中央アメリカでテレジア的カルメル会士として初めて司教となったシルヴィオ・バエス司教や、レオン・カレンガローマ教皇大使もいました。チャラテナンゴの聖別奉獻では、教皇大使が司式しました。

目を引いたのは、公園をうめ尽くすだけでなく、近くの多くの通りにまで溢れ出た大勢の人々の参加でした。彼らはカルメルファミリーや聖職者達でした。この式典には約15名の司教達が参列し、その中にはホンジュラスのテグシガルパ大司教区の大司教であるロドリゲス・マラディアガ枢機卿もいました。

教皇大使は、教皇フランシスコが望まれる司教の姿について話し、エルサルバドル人の司教で殉教者である福者オスカル・アルヌルフオ・ロメロ司教を模範として示しました。オスワルド新司教からの感謝の言葉のあと、跣足カルメル修道会のフランシスコ・ハビエル・メナ神父がラテン・アメリカの総長顧問として挨拶し、ザベリオ・カニストラ総長の名代で皆に感謝の言葉を伝えました。

総長は、オスワルド新司教に、跣足カルメル修道会が彼のために祈り続けることを約束し、良き司教であるには良きカルメル会士であれば十分であるということをお願いしました。

最後の祝福とともに叙階式は終了し、サンサルバドルのカルメル会と教会は喜びで満たされました。



# 跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介いたします。

<< **Communications** (時事通信) >>

06//10//2016

## Opening and inauguration of the Saint Joseph monastery and spirituality centre in Nënshat, Albania

On the first of October, feast of St Therese of the Child Jesus, in the presence of Fr. General, Saverio Cannistrà, the monastery was opened in Nënshat, Albania, which forms part of the Province of Central Italy.

In the morning, Mass was celebrated with the Carmelite nuns in their monastery church. Later on the friars' monastery was inaugurated, once more in the presence of Fr General, together with the three missionary friars at present in Albania, the Administrator of the diocese and the Archbishop of Scutari, Mons. Massafra. Also present was a good number of priests, religious and secular order members from the country, together with a representation of Discalced Carmelite friars from Italy.

The grand finale of this joyful day ended with refreshments accompanied by dance and songs of the region. But before things came truly to an end we had to taste an exquisite tart in the form of the new monastery, prepared by the Carmelite nuns, together with images of Our Lady, St Joseph and the Holy Face which the nuns wished to give to the community on this occasion.



## 糸巻き棒からペンへ(14)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD



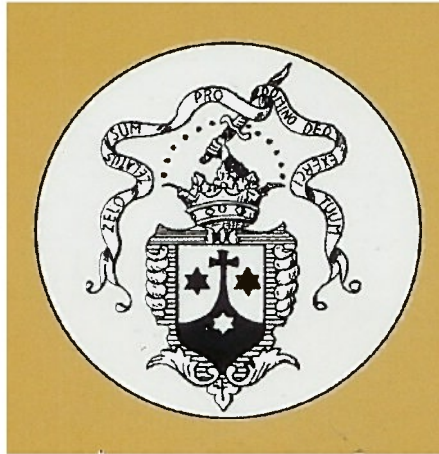
昔のキリスト教徒を常に連想させる土地の開墾以外、肉体労働は、名誉ある人々にはふさわしくないと見なされていました。改宗者や奴隷の子孫、また価値がないと見なされた仕事をしている人々は、絶えず侮辱にさらされていました。彼らは何らかの理由でびくびくし、社会に影響を及ぼす一階級となることは望むべくもありませんでした。多くの仕事、市民の仕事ばかりでなく、教会の仕事も、彼らには禁止されていました。名誉を持たない人々は、排除され、まったく考慮されませんでした。彼らに対しては、説明を求められることなく、いろいろのことをすることができました。

私たちは、聖テレジアが、「名誉の弊害（疫病）」とか「名誉のひどい点」について、たくさんのページを費やしていることに、驚かされます。彼女は、本当に自由であるためには、この社会悪（病根）から自由であるように、修道女たちに教えています。「この世とはこんなものです。息子がいる地位より低い地位に父親がいるならば、父親に敬意を払うため、彼を父親として認めないようしなければなりません。ここではそうであってはいけません。そうであれば地獄でしょう。より大きくなる人は、父親のことについてはよりわずかに触れるべきでしょう。すべての人が、同等でなければならないからです」。『会憲』では、こう命令することになります。「決して修道院長は、修道女のだれをも、ドーニャ（訳注：ドンの女性形で、本来貴族に対する敬称）で呼ぶことはできません」。名誉や名声に関して、それらは「社会的ヘアピース」であり、真理や自由をそこなうものであると書いています。主祷文を解説する時、一章全体をこのテーマに使っています。「そのことについてはたくさんのことを言わねばなりません、本当に神の娘でありたい人は、家柄についてまったく気にかけないことが重要です」（CE45）。

ヴァヤドリッドの修道院に、カスティリヤの総督（王国の首相と同等）の娘が入って来た時、その家族は侮辱されたと感じたことでしょう。というのもその階級の者がただの跣足修道女であることはできなかつたからです。しばらくして、彼女を或る大修道院の修道院長にするための勅書がローマから届きました。

（続く）

# カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

**Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum**

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）

# 三位一体の聖エリザベト

## 10月16日列聖記念

### 特別講話とミサ

日時： 11月26日（土）  
午後2時から講話  
講話終了後、三位一体のエリザベトのミサ

場所： カトリック上野毛教会聖堂

講師： 九里 彰神父

テーマ： 「神は私の内に 私は神の内に」



カトリック上野毛教会  
〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25  
Tel: (03) 5706-7355  
Fax: (03) 3704-1789  
(東急大井町線「上野毛」駅下車、徒歩7分)

〈跣足カルメル修道会主催〉

# 幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父 列福感謝ミサのお知らせ

カルメル会士で、ノートルダム・ド・ヴィの創立者  
尊者幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父は今年の11月  
19日に南フランスのアヴィニョン教区にて列福されること  
になりました。それを記念して、日本においても列福感謝  
ミサを行います。多くの方々との喜びを分かち合いたい  
と思いますので皆さま奮ってご参列下さい。

2016年12月10日(土)

10時30分 開始

カトリック上野毛教会聖堂

森一弘司教司式

男子跣足カルメル修道会  
ノートルダム・ド・ヴィ 共催  
カトリック上野毛教会 協賛

ミサ後に信徒会館でお祝い会があります

この世界と人々のために、私たちができる  
もっとも大きな愛の行為とは、聖人を与えることだ。  
それが他の人であっても、また自分自身であっても。

(幼きマリー・エウジェンヌ神父の言葉。1961年)

上野毛教会所属信者以外の方は、席に限りがありますので  
参列ご希望の方は必ずお申込みください

申し込み・問い合わせ

列福感謝ミサ受付担当(ノートルダム・ド・ヴィ)

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail kinenmisa1210@gmail.com

※列福感謝ミサ専用メールアドレスを設けました。

メールでのお問合せ・申し込みはこちらのアドレスをお願いいたします。

背景の写真

マリー・エウジェンヌ神父の遺骨が安置  
されているノートルダム・ド・ヴィ聖堂横庭



NOTRE  
DAME  
DE VIE



Ordre des Carmélites  
de l'Occident

# 上野毛霊性センター 2016年4月～2017年3月

## 黙想企画 \*\* 上野毛聖テレジア修道院 (黙想) \*\*

### 1. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時  
2016年12月24日(土)～25日(日)朝食《講話なし、夕食なし》

### 2. 日帰り一日黙想会 13時30分～16時 福田正範神父

[聖人たちを支えた神のことば]

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことである”と聖ヒエロニモは言いました。第二バチカン公会議においても次のように語られています。「すべてのキリスト信者は、しばしば聖書を読んでキリストを知る素晴らしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25) 信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように・・・。

2016年

11/11 (金)、11/24 (木) 12/9 (金)、12/22 (木)

2017年

1/12 (木)、1/27 (金)、2/9 (木)、2/24 (金)、3/9 (金)  
3/24 (金)

\*申し込みは、3か月前より受付致します。

### 3. 奉献生活者のための黙想会

2016年

12月27日(火) 18時～2017年1月5日(木) 朝 福田正範神父

### 4. 青年黙想会(男女)

2016年

11月26日(土) 16時～27日(日) 16時

5. 聖週間前の黙想会 福田正範神父

2017年

3月 18日(土) 18時夕食～20日(月) 16時

6. 特別黙想会 Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

2016年

10月28日(金) 20時～30日(日) 16時



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願い致します。  
間違いを避けるためなるべくFAX・はがき・Eメール等でお願ひできますならば  
幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

Tel : (03) 5706-7355 Fax : (03) 3704-1789

# \*\*\*\*\*日帰り黙想会\*\*\*\*\*

## ☆☆☆聖人たちをささえた神のことは☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ”とヒエロニモは言いました。  
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25)信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように…。

**場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想の家)**

**指導：福田正範神父**

\*企画の一日黙想会は、都合により、半日の日帰り黙想会に変更になりました。

午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前10時~ご利用が可能です。

昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。

費用：午後からのご参加・・・¥2000、午前からのご参加・・・¥3500

**日時： 2016年 11月11日(金) 午後1時30分~午後4時**

11月24日(木) ”

12月 9日(金) ”

12月22日(木) ”



お問合せ・お申込み

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789 Eメール:

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp





# カルメル青年黙想会

## 主はともにおられる

—神との親しさを求めて—



日時： 11月26日(土) 16時 ~ 27日(日) 16時

場所： カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

対象： 高校生以上の青年男女(35歳まで)

定員： 20名

費用： 一般 10,000円 学生 7,000円

締切： 11月19日(土)

指導： 福田正範神父・カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・FAX・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

電話： 03(5706)7355

FAX： 03(3704)1789

E-mail： mokusou@carmel-monastery.jp

# 2016年 黙想会案内

(宇治カルメル会)

## 【水曜黙想】(午前10時～午後4時)

11月16日(水) いくつしみの御母、聖マリア 松田浩一神父

## 【キリスト教霊的同伴】(金曜日：夕食なし) 午後8時～午後3時まで

11月11日～12日(土) 松田浩一神父

12月2日～3日(土) 松田浩一神父

## 【待降節の黙想】

12月10日(土)～11日(日) 夜露のように静かに訪れる神を待つ  
(午後5時～午後4時) 中川博通神父

## 【一般のためのカルメルの霊性セミナー】

12月13日(火)～14日(水) (午後5時～午後4時)

十字架の聖ヨハネの霊性(2) 松田浩一神父

## 【奉献生活者の黙想】

12月27日(火)(午後5時)～1月5日(木)(午前9時) 松田浩一神父

## 【English Retreat】

11月26日（土）（10am to 4pm）

Maranatha-Come Lord Jesus

シスタ.-ロサ

祭日のミサに参加するために

### 【クリスマス】

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30

12月24日（土）～12月25日（日） {講話なし、各食事つき}

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会個人黙想も歓迎いたします—  
☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457

E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

# 『社会人のための霊的同伴』

## — 日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴**(スピリチュアル・コーチング)を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

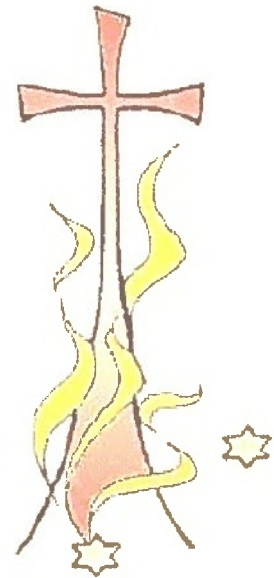
### 【内容】

- この企画は、キリストと各人との人格的交わりを深めるものでありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにした祈りのひと時です。

### 【参加者人数】 6名

【開催日】 2016年 2月19日(金)～20日(土) 終了  
3月18日(金)～19日(土) 終了  
6月 3日(金)～ 4日(土) 終了  
7月 8日(金)～ 9日(土) 終了  
9月 2日(金)～ 3日(土) 終了  
10月21日(金)～22日(土) 終了  
11月11日(金)～12日(土)  
12月 2日(金)～ 3日(土)

(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 6,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12  
カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)  
Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457  
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

## カトリック教会 カルメル 青年黙想会

『皇帝のものは皇帝に、神のものは神に』(マルコ 12:13)

神の義とわたしたちの正義の考察



イエスのテレサ



リジューのテレーズ



十字架のヨハネ

フランシスコ教皇様は、現在起こっている各地の戦争を憂慮しています。日本も国際社会の一員として他人ごとではありません。私たちの正義を凌駕する神の義とは何でしょう。正義を凌駕する神の義は「いつくしみ」とテレーズは言います。この黙想を致しましょう。

日時：2016年11月23日(水) Am10時 ~ Pm4時

場所：宇治聖テレジア修道院(黙想)

対象：35歳までの青年男女

会費：2,000円(学生は1,000円)

霊的同伴：松田浩一神父

申込み：〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

TEL : 0774-32-7016

FAX : 0774-32-7457

Email : teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

# 宇治聖テレジア修道院（黙想）の 「建築基金」への献金のお願い

主の平和がいつも皆様の上にありますように

宇治の黙想の家は、1962年に建てられ、すでに54年の歳月が経っております。老朽化が進み、いろいろな点で支障をきたしております。そのため、新しく建て直す必要性が出てまいりました。会内で検討を続けてまいりましたが、財源に余裕がなく、新築計画が頓挫しております。

黙想の家は、キリスト者の霊的生活を培うために無くてはならないものです。またカルメル修道会は、霊的指導を会の固有使徒職としております。この意味でも、また日本の教会のためにも、静かに黙想する場所を、信徒の皆様のために確保してゆきたいと願っております。

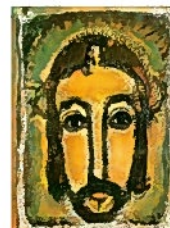
建築資金の確保のため、少額でも結構ですので、皆様の御協力をいただければ幸いです。お志のある方は、以下の会本部の銀行口座か郵便貯金口座にお振込みください。その際は、誠にお手数ですが、お名前とご住所、振込み日と金額を、郵便かファックスで本部までお知らせくださるようお願い申し上げます。よろしく願いいたします。

三井住友銀行  
上前津（カミマエヅ）支店  
普通口座：7205805  
名義：男子跣足カルメル修道会

郵貯銀行  
記号：10040  
口座番号：56845391  
名義：男子跣足カルメル修道会

男子洗足カルメル修道会本部  
〒456-0062 愛知県名古屋市熱田区大室 4-5-17  
Tel：052-571-1558 Fax：052-681-6445

# 《 名古屋一日静修 》



神のいつくしみに学ぶ

—特別聖年を迎えて—

1. 日時： 11月23日(水)： 「神のいつくしみの生きた証人となれ…  
(福者フランシスコ・パラウと他)」  
Sr. ポーリン・フェルナンデス (カルメル宣教修道女会)  
場所：カトリック日比野教会 信徒会館  
(地下鉄・名城線日比野駅下車 徒歩約5分)
2. 参加費：1000円
3. 持ち物：聖書、ロザリオ、筆記用具、お弁当
4. プログラム  
10:00 導入の祈り (聖堂)  
10:20 第一講話 (信徒会館)  
11:20 念祷 ① 赦しの秘跡または面接  
12:00 昼食 (信徒会館)  
12:30 念祷 ② 赦しの秘跡または面接  
13:00 第二講話  
14:00 念祷 ③  
14:30 ミサ (聖堂)  
15:30 茶話会 (信徒会館)  
16:00 終了の祈り
5. 申し込み：下記いずれかの方法でお申し込み下さい。  
FAX/0568 - 62 - 5167  
mail/seisyuu\_2015@yahoo.co.jp  
ハガキ/〒484-0076 犬山市橋爪一丁田1-26  
「名古屋一日静修」係

## 《一日静修特別黙想会》

日時：2016年12月3日(土)午後5時受付～4日(日)午後4時  
場所：宇治聖テレジア修道院(黙想)  
テーマ：「神のいつくしみに気づく」  
費用：一泊食事付(夕・朝・昼) 6000円  
指導司祭：九里 彰神父  
\* どなたでも参加できます。  
申し込み：同上の「名古屋一日静修」係へ。  
申し込み締切 11月26日(土)

(カルメル修道会主催 名古屋カルメル在世会協賛)

## 霊性センター

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

## 土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語り、またご聖体のイエス様と  
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788



## 聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

## 通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

### 1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 20,360円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 19,130円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号 朝日カルチャーセンター通信講座課

電話 03-3344-2527（直通）

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 Srローザ  
にお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：九里彰神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)

福者マリー・エウジェンヌ神父に導かれて

# 十字架の聖ヨハネの ひかりの道をゆく

伊従信子 編・訳

Selon Bienheureux  
LE PÈRE MARIE-EUGÈNE  
DE L'ENFANT JÉSUS

聖母文庫

**11月下旬発売予定!**

マリー・エウジェンヌ神父が十字架の聖ヨハネを生き、体験し、確認した教えなのです。ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの教えは現代の人々にも十分適応されます。また、神の命を伝え、実践的手段を示して聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

## 神と親しく生きる いのりの道

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師とともに

R. ドグレール / J. ギシャル 著

伊従信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 246

定価540円(税込) 207頁

## わたしは神をみたい いのりの道をゆく

マリー・エウジェンヌ神父とともに

伊従信子 編・著

ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 268

定価648円(税込) 281頁

# 祝 列福を祝って…!!

福者マリー・エウジェンヌ神父  
2016年11月19日

- ◆11月19日(土) 列福式: フランス・アヴィニオンにて
- ◆12月10日(土) 列福記念ミサ(予定): 東京上野毛教会にて  
-カルメル会・ノートルダム・ド・ヴィ共催-

## 福者マリー・エウジェンヌ神父に導かれて 十字架の聖ヨハネの ひかりの道をゆく

伊従信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195 【聖母文庫】

定価540円(税込)



ご注文  
承り中



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1  
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340

# 諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター  
真命山 霊性交流センター  
リーゼンフーバー神父キリスト教講座  
ノートルダム・ド・ヴィ  
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院  
サダナ瞑想  
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。  
記載には注意を期しておりますが、  
詳細は各問い合わせにご照会下さい。  
よろしくお願い致します。



## 諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

### 心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」藤原神父  
FAX 072・802・5026 Eメール [fujinao1944@nifty.com](mailto:fujinao1944@nifty.com)  
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

#### 2016年予定

N1	02/26 (金) -03/03 (木)	滋賀唐崎・ノートルダム
N2	05/07 (土) -05/13 (金)	滋賀唐崎・ノートルダム
K1	06/13 (月) -06/19 (日)	東京・小金井・聖霊会
K2	10/01 (土) -10/07 (金)	東京・小金井・聖霊会
N3	10/20 (木) -10/26 (水)	滋賀唐崎・ノートルダム
K3	12/05 (月) -12/11 (日)	東京・小金井・聖霊会

#### 2017年予定

N1	05/07 (日) -05/13 (土)	滋賀唐崎・ノートルダム
N2	10/10 (火) -10/16 (月)	滋賀唐崎・ノートルダム

年間のテーマ

イエスとの出会い  
その喜びを味わう

(レクティオ ディヴィナ)



2016年度行事のご案内

祈りの集い(10時~15:00時)

1月14日	イエスの誕生 (ルカ 2:1-14)	9月08日	ベトザタの病人 (ヨハネ 5:1-18)
2月11日	アンデレ (ヨハネ 1:35-43)	10月13日	マグダラのマリア (ヨハネ 20:11-16)
3月10日	ニコデモ (ヨハネ 3:1-8)	11月10日	フィリポ (ヨハネ 14:7-14)
4月14日	トマス (ヨハネ 20:19-28)	12月08日	ペトロ (ヨハネ 21:15-19)
5月12日	イエスの愛する弟子 (ヨハネ 21:1-7)		
6月09日	ザアカイ (ルカ 19:1-9)		
7月14日	サマリアの女 (ヨハネ 4:6-30)		
8月	休み		

指導者: フランコ神父

☎ 個人またはグループでの黙想会  
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター  
865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦 1391-7  
☎ 0968.85.3100  
e-mail: shinmeizan@gmail.com  
www.shinmeizan.com

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分  
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。  
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分  
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール  
キリスト教の基礎知識を持っている方。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心のテーマを探求します。2年間のコース。

●土曜アカデミー 下記(予定)の土曜日:

9時30分～12時00分、岐部ホール4階404、  
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。  
キリスト教思想史に関心を持っている方。プログラムの詳細は、別途配布。

2016年度:倫理と霊性の基礎づけⅡ近代・現代  
冬学期:10/1, 10/8, 10/15, 10/22, 10/29, 11/5  
11/12, 11/26, 12/3, 12/17  
2017/1/7, 1/14, 1/21, 1/28

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内 Kulturl-Haus 1階右テレジア小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、11月2日、12月28日は休み。

●黙想

・「会社帰りの黙想」 毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂  
どなたでも。但し祝日、8月9日、12月27日は休み。  
8月23日は、上智大学内 Kulturl-Haus 2F 聖堂。  
・「お昼の黙想」 毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂  
どなたでも。但し祝日、8月2日、11月1日は休み。  
・「水曜日ミサ後の黙想」 18時～18時30分 上智大学内 Kulturl-Haus 1階右、テレジア小聖堂。  
どなたでも。但し祝日、8月全体、11月2日、12月28日は休み。

・「黙想会」

6月18日(土)10時～19日(日)14時(上石神井)、11月19日(土)～20日(日)(上石神井)、2017年2月18日(土)～19日(日)(上石神井)、1泊2日、7,000円位。申込の締切は、初日の8日前。  
[関西] 9月24日(土)13時30分～25日(日)15時(宝塚黙想の家)。Tel.0797-84-7863 (Sr.田中)。

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。講話、黙想、ミサがあります。  
2016年  
10月1日、11月12日、12月3日  
2017年  
1月14日、2月25日、3月11日

・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分～16時50分

●坐禅会

・月曜日、木曜日 17時45分～20時10分  
上智大学内 Kulturl-Haus 1階左の部屋。3回坐り、間に講話。(祝日、5月2日、8月全体、10月31日、12月26、29日は休み)

●坐禅接心

10月30日(日) 20時20分～11月3日(木) 8時30分  
秋川神冥窟。1泊 2,400円(+暖房費)程度。  
事前申込み要。  
[関西]  
宝塚黙想の家。事前の申込み要。  
Tel.0797-84-7863. (Sr.田中)

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時～18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。  
2017年1月29日(日)。

## リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

キリスト教入門講座 2016-17年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 11/4 父と子と聖霊— 神の生命に与る  
 11/11 信仰の決断— 支えられて生きる  
 11/18 ミサ祭儀— 神への奉仕と生活の糧  
 11/19-20 ●黙想会(上石神井)  
 11/25 自己実現と神の意志— 生き方の規範  
 12/2 人間の弱さ— 罪とは何か  
 12/9 恵みとゆるし— 神の憐みを受ける  
 12/10 ◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17:30  
 パーティ、岐部ホール4階404,要申込み)  
 12/16 愛の心— キリスト教の本質  
 12/23 ◆クリスマスのミサ(14時、上智大学内ク  
 ルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)  
 12/25 ●クリスマスの黙想(18時50分-20時10  
 分、聖イグナチオ教会マリア中聖堂、予定)  
 1/6 隣人愛— 他人の内にイエスに出会う  
 1/13 希望を持つ勇氣— 未来に向かって歩む  
 1/20 霊の動き— 福音による生き方  
 1/27 秘跡と教会生活— 毎日を支える信仰  
 2/3 神の言葉— 神との日常的な対話と黙想  
 の仕方  
 2/10 結婚と独身— 愛の道  
 2/17 信徒・司祭・修道者— 誰もが召されている  
 2/18-19●黙想会(上石神井)  
 2/24 仕事という人間の課題— 社会と教会に寄  
 与して働く  
 3/3 人間の苦悩— 悪とは何のためか  
 3/10 死— その受け入れと克服  
 3/17 人生の完成— 神の内に生きる  
 3/24 聖母マリア— 信じる者の原型  
 3/31 限りのない救い— 匿名のキリスト  
 4/16 ◆復活祭のミサ(14時、上智大学内ク  
 ルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)

キリスト教理解講座 2016-17年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

- [イエス]  
 11/1 ○休み  
 11/15 キリストはだれか — キリスト理解の発展  
 11/19-20 ●黙想会(上石神井)  
 11/29 御子の受肉 — 神の子と人の子  
 [聖霊]  
 12/6 神の内的現存 — 人間における聖霊の働き  
 12/10 ◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分  
 パーティ、岐部ホール4階404,要申込み)  
 12/20 三位一体の神 — 救いの構造から神内  
 の存在へ  
 12/23 ◆クリスマスのミサ(14時、クルトゥルハイム2  
 階聖堂、定員80人)  
 12/25 ◆クリスマスの黙想(18時50分— 20時10  
 分、聖イグナチオ教会マリア中聖堂)  
 [教会]  
 1/17 信仰者の共同体 — 教会の本質  
 1/31 救いのしるしと実現 — 秘跡の意味  
 2/18-19 ●黙想会(上石神井)  
 2/21 「聖徒の交わり」 — 世界の只中のキリ  
 スト  
 3/7 人間と世界の究極の未来 — 終末の  
 約束

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウド・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

## 講話と祈りの集い

\*四ツ谷\* Week End Emao  
上智大学 2号館1階 カトリックセンター  
11月12日（土）午後2時～午後5時30分  
担当 片山はるひ  
講話・祈り・質問・分かち合い  
参加費 無料

テキスト『神と親しく生きるいのりの道  
幼きイエスのマリー・エウジェヌ師とともに』  
（聖母文庫 本体500円＋税）を用いて、  
講話を致します。詳細は下記連絡先まで  
お尋ねください。

\*上石神井\*  
祈りの集い特別プログラム \*クリスマスの集い\*  
12月18日（日）午後2時～午後6時  
担当：ノートルダム・ド・ヴィ会員  
講話：片山はるひ  
講話・祈り・お茶・質問・分かち合い・祈りの夕べ  
参加費 200円  
※テキストは使いません。

※10月より伊従担当の集いはしばらくお休みです。  
代わりに片山が担当いたします。

お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

『片山はるひ宛』をお願いします。

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com



## サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

★申込み受付・・・開始日の8日前で締切ります

コース	日時	指導者	開催場所	申込み
入門B	11/27(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	若山美知子※ Tel&Fax 03-5918-9870
フォロー アップ	12/4(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	若山美知子※
入門C	2017年 1/15(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	若山美知子※
サダナ I	2/9(木) 9:30- 2/11(日)16:00	Fr植栗	汚れなきマリア修道会 町田黙想の家	若山美知子※
フォロー アップ	2/26(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	若山美知子※
サダナ II	3/16(木) 9:30- 3/20(日)16:00	Fr植栗	汚れなきマリア修道会 町田黙想の家	若山美知子※

※不在の場合は、渡辺由子 Tel & Fax : 042-325-7554

### ◆サダナ I (入門A. B. C)

体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

### ◆サダナ II

Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ・・・サダナ I を終えた方。

◆入門C・・・入門Aまたは入門Bを終えた方。



## ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1  
Tel： 077-579-7580  
Fax： 077-579-3804  
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。  
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2016年 5月 6日(金) ～ 5月 14日(土)
- ② 8月 14日(日) ～ 8月 22日(月)
- ③ 10月 19日(水) ～ 10月 27日(木)
- ④ 12月 27日(火) ～ 2017年 1月 4日(水)

B. 祈りの体験：週末3日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2016年 2月 5日(金) ～ 2月 7日(日)
- ② 2月 26日(金) ～ 2月 28日(日)
- ③ 3月 18日(金) ～ 3月 20日(日)
- ④ 6月 17日(金) ～ 6月 19日(日)
- ⑤ 7月 22日(金) ～ 7月 24日(日)
- ⑥ 9月 16日(金) ～ 9月 18日(日)
- ⑦ 11月 18日(金) ～ 11月 20日(日)

C. 講話 黙想（奉献生活者のため）

2016年 5月 30日(月) ～ 6月 7日(火) 中川博道 師（カメル会）

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(フリガナ) 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて  
郵送、または、Fax で「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。  
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順 11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なされたい方はご相談ください。（但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。）

# 神のいつくしみを生きる

2016年度 青年黙想会

	日時	テーマ	講師
1	5月21日(土)～22日(日)	闇と光	山内十束師(ご受難会)
2	7月9日(土)～10日(日)	冬と春	山内十束師(ご受難会)
3	11月12日(土)～13日(日)	絶望と希望	山内十束師(ご受難会)
4	2月18日(土)～19日(日)	罪と恵み	山内十束師(ご受難会)

場所： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

対象： 独身女性青年信徒

費用： 2,500円 (一日参加も可)

申込み・問合せ： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院 シスター桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

# 神のいつくしみを生きる

—絶望と希望—

2016年度 第3回 青年黙想会

日時： 11月12日 (土) 15:00 ～

13日 (日) 15:30 まで

場所： ノートルダム唐崎修道院 (JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身青年女性信徒

費用： 2,500円

締切： 2016年11月6日 (日) まで

〈申込み・問合せ〉

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会 Sr. 桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

# 祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて  
— 観想の祈りへの道 —

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14:00～16:00

【2016年予定】

- 3月17日(木) 『霊の賛歌』 第1回目：導入の講話（緒言と詩） 終了
- 5月26日(木) 『霊の賛歌』 第2回目：はしがき・概要・注解 終了
- 7月21日(木) 『霊の賛歌』 第3回目：第一の歌（2～12） 終了
- 9月22日(木) 『霊の賛歌』 第4回目：第一の歌（13～22） 終了
- 11月17日(木) 『霊の賛歌』 第5回目：第二の歌
- 12月15日(木) 『霊の賛歌』 第5回目：第三の歌

\* 参加費無料（献金歓迎）

\* 問い合わせ先：042-473-6287 篠原

九里彰神父（カルメル会日本管区長）



## ＜＜特別黙想会＞＞

日時：2016年12月17日(土) 4時半受付～18日(日) 午後4時

場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

テーマ：「神のいつくしみに気づく」

指導司祭：九里彰神父

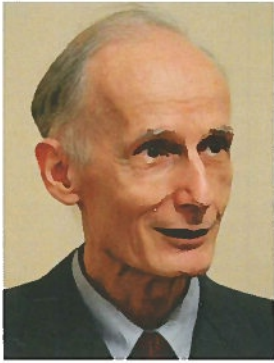
申し込み：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

Tel: 03-5706-7355 / Fax: 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。



# クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と靈性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、靈的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	<b>I 超越体験 一宗教論</b>	定価(本体+税)
	宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	9784862852151 3,800 円+税
第2巻	<b>II 真理と神秘 一聖書の黙想</b>	
	日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	<b>III 信仰と幸い 一キリスト教の本質</b>	
	主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と靈性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	<b>IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論</b>	
	古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拓いて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	<b>V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践</b>	
	信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

## ●リーゼンフーバー, クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学の人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知泉書館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

http://www.chisen.co.jp

# 霊性センターニュース

## \* 年間購読(郵送)のご案内 \*

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。  
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号休刊を除きます）  
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、  
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、  
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25  
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申し込み》

[tokyo@carmel-monastery.jp](mailto:tokyo@carmel-monastery.jp)

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい。

\*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171 Fax: 03-3704-1789

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google: 「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会  
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

## 『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

### 「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



### 編集後記

電話口で驚いたことがある。後にも先にも、一回限りの体験である。どういうことかということ、神学生の時、某女子修道会に電話をかけた時のこと。

「カルメル会のクノリと言いますが…」と言い終わらないうち、相手のシスター？は、「ワッハッハハハ…」と大きな声で笑い出した。びっくりしたが、とにかく用件を言わなくてはならない。「〇〇シスターはいらっしゃるのでしょうか」と聞くと、またもや「ワッハッハハハ…」と笑い続け、取り付く島もない。そして、そのままいなくなってしまった。いるのかいないのか、話を通じたのか通じなかったのか、確かめようもない。受話器を持ったまま、きつねにつままれたような思いでいると、しばらくして〇〇シスターが現れた。

憶測にすぎないが、おそらく、その年の神学校の雑誌に寄稿した私の一文を読んだものと思われる。女性の美しさについて面白おかしく書いたのだが、それが仇となったようである。サラリーマン川柳にこんなのがあった。

電話口「何様ですか？」と聞く新人

(P.九里)



### 製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に毎月最終週の火曜日に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「11月号」製本日

11月29日(火) 上野毛教会信徒会館ホール 1階  
午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171